



“三陸海岸大津波”

吉村 昭著 2004年3月10日第1刷 文春文庫 438円+税

3月11日に東日本沿岸を襲った津波の傷跡は未だ生々しいですが、この本は吉村昭が三陸海岸を襲った明治29年、昭和8年、昭和35年の三つの大津波について生存者の話を聞いて昭和45年にまとめたものです。内容を2、3紹介します。

明治29年は春から不漁続きで住民はあえいでいたが、6月に入ってマグロ、鰯、かつおなどが処置に困るくらい取れだし、古老たちは40年前の安政3年の大津波直前の豊漁を思い出して不吉な予感を抱いた。そして6月15日夜、ゆっくりとした揺れの後に大津波が襲いかかってきた。

昭和8年の津波は3月3日の深夜に起こった。岩手県田老町の小学6年生の牧野アイは地震直後に友人と高台へ逃れて助かったが、津波で家族全員を失い孤児になった。親戚を転々とした後19歳で地元に戻り、翌年同じく孤児で小学校教員の荒谷氏と結婚する。そして昭和45年、田老町第一小学校校長夫人の彼女に筆者は面会する。「荒谷夫妻は現在でも地震があると豪雨であろうと雪の深夜であろうと子供をつれて山道を必至になって駆けのぼる。夫妻にとって津波は決して過去だけのものではない」田老町ではこの津波の後に全長2.4km、高さ10mという大防潮堤を築いたが、今回の津波はこれを乗り越えて町を洗い流した。

昭和35年の津波はチリ沖を震源とする津波で、日本で警報が出なかったために多くの犠牲者が出た。宮古測候所長を勤めた二宮三郎氏は、旧南部藩の古記録で宝暦元年(1751年)の津波の記事に地震の記述がないのを不審に思っていたが、このチリ地震津波を契機に古記録を調べ、過去380年間に三陸海岸を襲った大小43例の津波のうち9例が南米で起こった地震津波の余波であることを突き止めた。

西日本では東海、東南海、南海地震の発生が予想されていますが、今回のようにこれらが連動してM9.0クラスの巨大地震と大津波が発生した場合への備えが急務になってきている。本書は初版から40年経っているが、各人がそれぞれの立場で津波への備えを考える上でヒントになる書であると思うので一読をお奨めします。(池田隆)



ATAC活動の内容 PR

ATACは長年の経験により培った独自の技術とノウハウを、中堅・中小企業の方々が抱えられるモノづくり、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援し、発展に資することを目的としています。

1. コンサルティング

中堅・中小企業の皆様がお悩みのさまざまなテーマについて、コンサルティングを行います。

- ・モノづくり(合理化・5S・品質改善・新製品の開発)
- ・生産管理システムの構築
- ・事業継続計画(BCP)作成支援
- ・公的資金の導入支援

2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。講演会・研修会へ講師派遣も行ないます。

- ・フレッシュマンパワーアップ研修(3日間)
- ・管理職～中堅社員の社内研修(内容・必要日数は相談に応じます。)
- ・社長懇話会

3. 書籍刊行

- ・ATACの経営便利帳
- ・現場の課題解決はこうする(中堅・中小企業の業務改善例)
- ・中堅・中小企業へのATAC提言集(1)～(6)
- ・目からウロコのアドバイス～中小企業経営者への提言～

4. 産学連携のお手伝い

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

相談無料

まずは、ご連絡下さい

(財)大阪科学技術センター
技術振興部
ATAC事務局

Tel [06-6443-5323](tel:06-6443-5323)

Email atac@ostec.or.jp

URL <http://www.atacne.jp>

ATACニュース、Webに関するご意見、ご要望なども、どしどしお寄せ下さい。

編集後記

今号は東日本大震災に関連する記事が、巻頭頁、2頁、4頁の書評と重なりました。関西の中小企業も、それを支援するATACも、今回の災害に関連して起きた課題への対応を急がなければなりません。同時にこの災害を新たなビジネスチャンスにしたいものです。遠からず予想されている東南海・南海地震への備えにも役立てば幸いです。(池田(隆))